

## ユーザーからみた海洋スポーツの 需要に関する研究(1)

○酒井 哲雄(鹿屋体育大学)  
山口 泰雄(鹿屋体育大学)

海洋スポーツ 需要 リゾート レジャー活動

### 1. はじめに

わが国では、近年、余暇時代の到来といわれてきたものの、勤労者の実質労働時間には大きな変化がみられなかった。しかし、40年ぶりの法定労働時間に関する労働基準法の改正(1988年)と銀行の土曜閉店(1989年)により、今後、国民の余暇時間は確実に増加することが予測される。

さらに、労働時間の短縮要求や1988年6月の「総合保養地域整備法」(いわゆる「リゾート法」)の公布・施行により、日本列島がいま、空前のリゾートブームでわきかえっている。リゾート法の制定には、政府の内需拡大という狙いがあり、企業にとっては「重厚長大」型産業からの転換と有休地の再開発という目的がある。また、自治体はリゾート開発による地域活性化を期待している。しかしながら、リゾート開発計画は利用者不在で進められており、ユーザーである国民のレジャー活動の検証という作業が忘れられている。

海洋スポーツ・レクリエーションに関する調査・研究は、開発者側からの調査や事例報告は多くみられるものの、ユーザーの立場からみた研究はほとんどみられない。わずかに、渡辺・沼田(1986)が海洋レクリエーション活動の特性を報告し、(財)日本海事広報協会(1988)が海洋性レクリエーションの現状を発表しているものの、活動タイプの特性や需要などに関する分析は不十分である。本研究の目的は、海洋スポーツの需要をユーザーの視点から分析し、その特性とパターンを人口統計的要因と経済的要因から検証するものである。

### 2. 研究方法

#### 1) サンプル

本研究の対象は、1989年に開催された2つの地方博覧会(福岡市よかトピア、鹿児島市サザンピア)の入場者331名である。サンプル特性としては、平均年齢31.0歳(SD13.0, MODE 21.0)、男子57.5%、女子42.5%であった。調査方法は、10項目による質問紙を作成し、あらかじめトレーニングを受けた調査員による面接法を用いた。調査期間は、1989年3月25日より5月10日までの1.5カ月間である。

#### 2) 研究問題

本研究では、以下のような分析の視点から問題を設定した。

- (1) 海洋スポーツの実施経験と希望種目において、性差があるか?
- (2) 海洋スポーツの実施経験や希望種目と経済的要因との間には相関があるか?
- (3) 海洋スポーツの実施経験と希望種目において、世代差があるか?
- (4) 海洋スポーツ実施の阻害要因は何か? また、性差はあるか?

#### 3) 分析方法

データ分析は、単純集計、クロス分析及びピアソンの相関分析を行った。有意差検定には、5%レベルの棄却域を適用した。

### 3. 結果

Table1は、海洋スポーツの経験と今後、実施したい種目を性別に表したものである。全体の経験が約5~20%という数字は、(財)日本海事協会の調査(1986)とほぼ同様な結果を示している。

次に、海洋スポーツの経験と今後、実施したい種目を世代別に分析した結果をまとめると、以下のようになる。世代間で統計的に有意差がみられたスポーツは、

(1)ヨット・ボート経験：10代、20代<30代以上 (2)水上スキー希望：10代、20代>30代以上、(3)大型客船希望：30代以下<40代、50代 (4)マリッジット希望：10代、20代>30代以上、(5)スクーバダイビング：30代以下>40代、50代。

Table 1 海洋スポーツ経験と実施したい種目

	ボート	ヨット	大型客船	ボードセーリング	水上スキー
M	35.5% (15.8)	19.1% (20.2)	13.7% (7.1)	7.1% (8.7)	6.5% (9.8)
F	34.1% (8.9)	9.6% (15.6)	10.4% (8.1)	7.4% (7.4)	3.7% (18.5)
	スクーバダイブ	サーフィン	水上オートバイ	パラセーリング	
M	6.3% (26.2)	3.8% (4.4)	2.7% (21.3)	0.5% (7.1)	
F	3.0% (32.6)	2.2% (3.7)	2.2% (11.9)	0.7% (5.9)	

1. ( )内は、今後実施したい者の割合
2. \*は、5%レベルで性差がある

Table 2 海洋スポーツ実施の阻害要因

順位	要 因	%
1位	時間がない	49.8
2位	コストがかかる	40.5
3位	施設がない	16.6
4位	仲間がいない	7.9
5位	スクールがない	6.6

N.S. (性差)

### 4. まとめ

地方博覧会の入場者 331名を対象に、面接法により、ユーザーからみた海洋スポーツの需要を分析した結果、以下のようによまとめることができる。

- (1)海洋スポーツの実施経験と希望種目において、性差がみられる。
- (2)海洋スポーツの実施経験と需要は、経済的要因との間で強い関連がみられる。
- (3)海洋スポーツの実施経験と希望種目において、顕著な世代差がみられる。